令和４年度　特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立大同西小学校（外 11 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

１．特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

２００７年４月

２０１８年４月　変更

＊取組の期間

２０３０年４月まで

２．特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実は我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため，小学校第１学年及び第２学年の生活科 20 時間を外国語活動に替えて実施する。

３．地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え，発展してきた。また，2002 年には FIFA ワールドカップの会場地となり，2021 年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり，「子どもが元気　香る歴史とスポーツで紡ぐまち　鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして，本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが，本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え，教育課程の特別措置申請を行うこととした。

４．実施の効果、課題および方向性

（１）特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

「一人一人のよさを伸ばし　心豊かにたくましく生きる児童を育成する」の教育目標の具現化に向け，「だれもが　いきいき　にこにこ笑顔の　しょうがっこう」をスローガンに，日々の教育活動に全職員であたっている。

また，特別の教育課程の編成・実施により，異なる言語との出会いの体験・コミュニケーション力・外国語への慣れ，親しみの素地を早い段階から培う環境が整っている。１，２年生の外国語活動においても，児童の「英語に親しむ・慣れること」を第一目標に，担任やＡＬＴが指導・支援にあたっている。

その効果として，英語でのやりとりを通じて，英語が身近な言語として児童一人一人に浸透しつつある。また，様々な視聴覚媒体を介し，音の響きや英語特有のリズムを，互いに楽しく学ぶ時間となっている。

一方，課題として，英語でのコミュニケーションをとる際，相手の発する外国語をより注意深く聴く姿勢へと高めていかなくてはならないことが，挙げられる。

３，４年生の外国語活動および５，６年生の外国語科の授業においても，児童一人一人が，英語を楽しむ雰囲気があり，授業を心待ちにしている児童も多い。

Ｔ１である担任やＡＬＴとの英語でのコミュニケーション活動等に積極的に臨む様子が見られる。

また，令和３年度，第６学年を対象にした GTEC Junior では，「話す力」を除くすべての junior グレードが４を記録した。（昨年度は，すべてのグレードが３にとどまった。）

一方，今後の外国語活動・外国語科の授業の課題として，以下の点が挙げられる。

・互いに英語で尋ねたり，返答したりする際，声量に乏しくなる傾向が見られる。

・英語での会話の継続に躓くと，途絶えたままになる傾向にあるとともに，新たに覚えた英語表現こそ用いることはできるが，内容に対する付け加えや質問などを行うまでには至らない傾向も見られる。

（２）課題の改善のための取組の方向性

児童一人一人の外国語活動・外国語科に対する興味・関心や，「話せるようになりたい。」という願いや思いを大切にし，今後も「楽しく学ぶ英語科（外国語活動）の授業」づくりに取り組んでいきたい。

課題の克服にあたっては，「話す力」のスキルアップに焦点をあて，おもに以下の点について支援策を講じていく。

・導入時の Small talk の工夫…「失敗しても大丈夫な時間」であることの再確認
…より話したくなるトークテーマの設定・提示
…「ｗｈｙ？」（お互いの疑問）を大切にする会話の推奨

・話す意欲，話す勇気への賞賛…児童の挑戦を認め・励ます指導・支援の継続

授業での外国語学習を一契機として，学校・家庭・地域での生活の中で，児童一人一人の英語の力が涵養するよう，全職員で支えていきたい。